

トヨタ流で医療事故防げ

トヨタ流の「カイゼン」を医療の世界へ。相次ぐ医療現場での事故を受け、名古屋大医学部（名古屋市昭和区）は、トヨタ自動車と連携し、同社の品質管理や人材教育のノウハウを病院での治療に取り入れ、不測の事態が起きても適切に対応できる専門医養成に乗り出す。全国の大病院なども参加する医療安全のハブセンター（中心拠点）を目指す。

（柚木まり） 〓 関連③面

名大連携し専門医育成へ

世界的企業に成長したトヨタは、徹底して無駄を排除して生産管理する「カンバン」方式や、製造過程で不良品が出る原因を分析し、工程を改善する「カイゼン」で知られる。

名大はこの「トヨタ哲学」

を医療現場に応用。医師が患者を診察し、麻酔、手術、投薬などの治療を行う際、手術が適切か、必要な検査はできているか現場がチェック、判断ができる態勢を目指し、こうしたシステムを構築できるベテランの医師による医療安全管理者を養成する。

外科医や麻酔医、看護師ら

品質管理の知見応用

多職種が関わる手術の症列別

リスクもデータ化して蓄積。

ミスやトラブルが起きやすい

プロセスを把握した上で、手

術して問題が起きた場合もす

ぐに報告できるようにする。

プログラムでは、実際にト

ヨタの工場では医師らが品質管

理の研修を受ける。トヨタの

品質管理担当者も名大病院で

発生した課題について解決策

を探る。

全国の医療関係者がこれに

参加し、医療安全管理者とな

った後、名大医学部を拠点に

ウェブ会議などを開き、デー

タや経験を交換し合う。十月

からプログラムを始める予定で、九月二十七日にキックオフシンポジウムが名大で開かれる。

医療事故をめぐっては、千葉県がんセンター（千葉市）や群馬大病院（前橋市）で、腹腔鏡を使った手術を受けた患者が相次ぎ死亡するなど手術方法の不透明な判断過程や、患者家族への説明不足が指摘された。

プログラム実行委員長を務める名大病院医療の質・安全管理部の安田あゆ子副部長（@ミ）は「医療現場にも適切でないことが起きたとき、原因を明らかにできる仕組みが必要と考えた」と連携の理由を説明する。

トヨタ自動車の担当者は「品質管理を全員参加で徹底に行い、顧客の満足を得られるものづくりに取り組んできた。生産現場での原因究明と再発防止の考え方や解析手法を医療現場にも適用し、少しでも役立ちたい」と話す。